

(別紙)

令和5年6月定例会議 一般質問【日曜議会】

1 番議員 清水 友紀

開成町都市計画マスタープランに沿った、駅前開発に向けた町の考えは

自然豊かな場所でのびのび子育てをしたいと、利便性を併せ持つ開成町へ多くの子育て世代が移住している。私もその1人で、約6年前に1才だった未就園児を含め、家族で移住してきた。

平成27年に改訂された「開成町都市計画マスタープラン」の表紙に大きく記される「人と水と緑が調和した活力ある快適都市かいせい」とは、まさに住民の多くが仕事や子育てに励む都市を言い表している。その計画書の中で示される、駅前通り線の将来イメージ像もまた同様に、自然と調和した都市の景観そのもので将来への期待感を抱かせる。

しかし令和3年10月号広報かいせいの「開成駅周辺のまちづくり」と題した見開きページと、本町のホームページ上で「町のめざす将来像」として現在示されている図は、水路が消え緑の面積が激減し、遠くの山々を覆い隠す高層の建物が立ち並ぶものに変貌している。

いつ、なぜ町の将来イメージ像はこのように変化したのか。町長の将来像のビジョンを問う。

また、38年前に開成駅ができ、4年前には急行も停車するようになったが、開成町は小田原市の副次拠点になっているか、町長の考えを問う。